



2019年12月13日

各 位

会 社 名 株式会社テー・オー・ダブリュー
 代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者
 (CEO) 江草 康二
 (コード番号：4767 東証第一部)
 問合せ先 取締役兼執行役員管理本部長
 梶岡 二郎
 T E L 03-5777-1888

業績予想の修正に関するお知らせ

ー通期の売上及び利益額は過去最高を更新する見通しですー

最近の業績動向を踏まえ、2019年8月8日に公表しました2020年6月期(2019年7月1日～2020年6月30日)の第2四半期(累計)業績予想及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年6月期 第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2019年7月1日～2019年12月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,013	1,207	1,209	806	35.91
今回修正予想(B)	9,608	1,356	1,364	918	40.89
増減額(B-A)	595	149	155	111	—
増減率(%)	6.6	12.4	12.9	13.9	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年6月期第2四半期)	8,647	1,216	1,233	826	36.80

2. 2020年6月期 第2四半期個別業績予想数値の修正(2019年7月1日～2019年12月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,313	715	1,233	1,003	44.64
今回修正予想(B)	7,820	808	1,333	1,078	48.01
増減額(B-A)	506	93	99	75	—
増減率(%)	6.9	13.0	8.1	7.6	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年6月期第2四半期)	7,064	785	1,361	1,106	49.24

3. 2020年6月期 通期連結業績予想数値の修正（2019年7月1日～2020年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	16,829	2,040	2,040	1,352	60.20
今回修正予想（B）	17,424	2,102	2,115	1,407	62.62
増減額（B－A）	595	62	74	54	－
増減率（％）	3.5	3.1	3.7	4.0	－
（ご参考） 前期実績（2019年6月期）	16,278	1,995	2,017	1,345	59.88

4. 2020年6月期 通期個別業績予想数値の修正（2019年7月1日～2020年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	13,155	1,063	1,582	1,235	55.00
今回修正予想（B）	13,662	1,097	1,628	1,273	56.70
増減額（B－A）	506	34	46	38	－
増減率（％）	3.9	3.2	3.0	3.1	－
（ご参考） 前期実績（2019年6月期）	13,283	1,198	1,781	1,389	61.82

5. 修正の理由

第2四半期累計期間の業績につきましては、“体験デザイン※”を全社的に推進した結果、既存銘柄の大型案件の受注が堅調だったことに加え、新規銘柄からも大型案件を複数取込むなど好調に推移し、また、収益に関しましては、「付加価値の高い提案による適正利益の確保」「原価管理の徹底」を推進いたしました。

その結果、上期の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は2019年8月8日の公表値を上回る見通しとなりました。

通期業績予想につきましては、積極的な事業展開の継続や2020年の国際的なスポーツイベント関連の案件が加速してきたことにより、売上高は17,424百万円と前年同期実績を7.0%上回りますが、販管費において、費用効率化に努めるものの、今後を見据えて人材強化やオフィス拡張、デジタル領域の基盤強化など先行投資を見込んでおります。これらの要因により、通期の営業利益と経常利益は各々前年同期比5.4%増の2,102百万円と同4.8%増の2,115百万円の増益となる見通しですので、上記のとおり修正いたします。

※ブランドとのWow!な体験を起点に、体験者がそのブランドのファンとなり、特にSNSをハブに多様なメディアで体験の拡散・共有を最大化させる、その仕組みを設計すること。

（注）上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上